

続・ふるさと

弁天池遺跡と弁天池

第31回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

弁天池とは、祖母井の名前の由来となった姥が池のことである。現在、池のほとりに厳島神社が祭られているが、江戸時代の神仏習合の世にあっては弁天様が祭られたことから弁天池の名がある。弁天池遺跡は、この池の上部稲毛田台地上に広がる縄文時代の中期から後期、今から約4500年前から約3000年前にかけての遺跡である。

出土している。これらの出土品から弁天池遺跡に住んでいた縄文人が、山菜やキノコを採り、ドングリやトチなどの木の実をひろい、ヤマノイモやクズ、ワラビなどの根を掘って袋状土坑に貯蔵したり、あるいはドングリやトチ、クズ、ワラビなどを砕いたり粉にしてから、でんぷんを得て食料としていたことが考えられる。

水さらしの場に弁天池が使われたものと思われる。一方、石の鎌などの狩猟用具の出土は極端に少ない。動物を狩るよりも木の実などを採集した方が、食料確保が楽であり安定的であったのであろう。

〈お詫びと訂正〉10月号文中、星宮神社の別名「北辰館」は、正しくは「北辰宮」でした。お詫びして訂正します。

編集後記

□今年の那珂川、鮎がとても少ない。いつもなら友釣りで一日、そこそこ楽しめるのですが、今年は釣れない時間が長すぎます。釣れない時間の過ごし方で上手になると言いますが、釣れなさ過ぎてとても辛いものです。

□例年この時期になると、お腹いっぱいのお腹を抱えた鮎が釣れるようになります。それをおせち料理の昆布巻き用にストックします。独特の食感で、とても美味しく好評を得ています。

■でも今年は、塩焼きにすらならない状況。家族からも「今年は鮎食べていない」なんて言われる始末…。お正月まで待つてもらおうわけにはいかないようです。

(ネタ)

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
 - 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
 - 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
 - 苦情専用フリーダイヤル
☎0120 (753) 898
- ☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



(L=13cm)
Muscicapa latrostris



スズメより小さく、頭から尾羽にかけて背面が灰褐色で、腹部は白く一部不明瞭な顎線がある。20～30羽の小さな群れで行動し、ツイーとかチーと小さく鳴く。夏鳥として本州の中部山地より以北に渡ってくるが、本県以北では低地の雑木林で繁殖することもある。97年には給部から北の丘陵の林で繁殖した。コナラの横枝に、スギゴケや羽毛などで成形した直径約12cmのお椀状の巣を作り、6～7羽のひなを育てた。

秋の移動時期には2～3家族が小さな群れを作り、採餌行動をしながら南下する。やがて海を渡る前に、大きな群れとなって東南アジアや西太平洋の島々に渡っていく。

このヒタキ類の採餌は、大きな8の字を描きながら飛行して昆虫の幼虫やハムシ類をフライングキャッチするのが特徴である。

これからの時期、雨上がりにミズキやアカメガシワの花の上空を盛んに飛ぶ姿を観察するのも楽しみである。